

ドキュメンタリーの視覚2

鈴木一誌

気鋭の映画評論家としても知られるデザイナーが
古典的作品から記録映画をどう観るかを探る連載。

フェアトレードの現在

5

オルタナティブな南北貿易の回路をもとめて

第二次大戦後、数世紀来の植民地本国だった欧米諸国で、フェアな貿易(トレード)を実行する運動が生まれた。日本でも20年ほど前に誕生し、近年活況の兆しを見せ始めている。アンフェアな現実が続くかぎり南北格差解消の理念を現実化しようとする動きは途絶えることはない。南北の人々の連帯活動報告とその理論を掲載してきた本誌は、公共的議論の素材として利用されることを念願しつつ、雑誌としては類例のない規模でフェアトレードを特集する。



特集1

フェアトレードのジレンマとその克服

池上甲一

消費者の社会的責任に基づくフェアトレードの内部組織化

8

特集2

コーヒー危機とフェアトレード

辻村英之

価格形成の特質と生産地への影響

22

特集3

フェアトレードの分類と課題

鈴木紀

フェアトレード・チョコレート事例から

34

特集4

フェアトレードがめざすもの

辻村英之

多様化する日本の現状と課題整理から始める

45

特集5

企業として

辻隆夫

フェアトレードコーヒーに取り組む

付加価値を求めるだけで終わらせない事業の難しさ

65

特集6

ATTJ(オルタナトレードジャパン)と民衆交易の試行錯誤

近藤康男

食と農を取り戻し、北と南の人々の共生へ

70

特集7

ニッポンのフェアトレードの不思議さ

北澤肯

ラベル認証機関の体験から見えること

80

特集8

「認証基準」への上乗せによる第二の道

兵藤亜沙

イコール・エクスチェンジの事例をもとに

88

特集9

FITSN(フェアトレード学生ネットワーク)の歴史・現状・課題

内田陽子

利害中立性という学生の立場を貫いて

97

フェアトレードを持続させてゆくためには、そこに内在する経済的矛盾を乗り越えねばならない。社会的責任を自覚した消費者による内部組織化の運動から生まれるその可能性とは。「生産者の顔の見える関係」はFTにおける指標の一つだが、具体的にそれは何なのか。価格形成が産地に与える影響と農家経営経済の分析を軸に、FTの進むべき道を探る。

市場の拡大につれて多様性を増しているフェアトレード。代表的商品であるチョコレートに焦点を当てることで、その課題のみならず経済統合形態としての意義を照射する。

ようやく人口に膾炙してきた「フェアトレード」だが、何をどうフェアにするのか、可能性の幅は広い。認証型と提携型という二つの類型から、その多面的な様相を提示する。

民間企業にとってFTとは何か。どのような課題に直面し、どのような困難を乗り越えてゆかねばならないのか。認証ラベルを取得しFTコーヒーに取り組む一企業の小史。

FT業界の最大手でありながら、生産者や消費者も含めた自分たちの事業を民衆交易と呼び、独自路線を歩むATTJ。欧米型FTとの、一方では通底し他方では異なる理念と手法。世界基準の一つでありながら日本においてはまた認知度の低いフェアトレード認証ラベル。その歴史と意義の再認識から、日本におけるフェアトレードの特色を浮き彫りにする。

質と量、目的と手段など異なる尺度を包摂するフェアトレード。認証基準を最低ラインとして価値を上乗せすることによって提携型と認証型の歩み寄りに成功したアメリカ企業の事例。

フェアトレードに取り組む学生を主体とするネットワークがそれぞれの活動を通じて地域を超え、全国へ広がっている。ネットワークの軽い学生の立場だからこそ果たしうる機能とは。

市民的公共圏を基盤とした社会への貢献
緩やかな結合ロウイクタモとコーヒーネーターへの注目

中村陽一

103

「市民社会」の領域からみたフェアトレード
イタリアの現状とグローバルバリエイの感覚

宇田川妙子

114

ケアの社会学

上野千鶴子

122

第七章 生協福祉の展開(1)

柄谷行人

138

『世界共和国へ』に関するノート(4)
国家の起原

「協同」の現場から

1 第3世界シヨップ

32

2 フェアトレードカンパニー株式会社／グローバルビレッジ

60

3 パシフィック・トレード・ジャパン

78

4 PEPUP(ペップ)

94

5 コーヒー焙煎ワーカーズ 珈琲工房まめ福

111

デザイン覚書8 「必要ナシ」

鈴木一誌

155

「2」8号に書いた／語った人たち

156

編集後記・次号予告

157

貿易や流通、生産や消費に関わる事業としてみならず、社会の仕組みを変革する運動としてのフェアトレードの可能性の広がりをも、「社会デザイン」の観点から探る試案。

近年、社会運動の熱を増してきたイタリアでは、フェアトレードに対する市民の関心が高まりつつある。この波は何に根差すのか、「市民社会」を切り口に考察する。

介護保健制度の下でのサービス提供では、生協やNPOのワーカーズ・コレクティブが福祉経営の上で比較優位にある。各事業体の歴史検証からはじめ、実践事例の研究報告。

農耕が国家を形成したのではなく、国家が農耕を生み出した。では国家はいかにして形成されるのか。共同体からのみ生じ、しかしその延長上には成立しないという二律背反を解明する。